

伊達一族の魂を供養する法要がこの部屋で行われる。祭壇には政宗（1567-1636）と彼の跡を継いだ 11 人の伊達藩主たちの位牌が納められている。中央のブロンズ像は、慈悲と思いやりの神様である観音様で室町時代（1336 年から 1573 年）まで遡る。また、左手には瑞巖寺の歴史の中で重要な役割を果たした僧侶を祀る 3 つの彫像がある。この部屋は元々小さかったが、政宗の死から 17 年後、奥に床の間が取り付けられ、拡大された。床の間は、現在は寺院の青龍殿博物館に展示されている鎧を着た政宗の木像を置くために付け加えられた。